

平成 24 年度

事業所名 : あお空グループホーム小本

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	039300007		
法人名	有玄会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	平成 24年 6月 11日	評価結果市町村受理日	平成 24年 9月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0393000070-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0393000070-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年 7月 3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田んぼや畑に囲まれた静かな環境の中でゆったりと一日一日を送れる様な支援を心がけています。隣接している小規模多機能センターの利用者様や職員と交流を持ち、馴染みの関係の輪を広げています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは敷地内の「小規模多機能センターあお空」や高齢者専用の集合住宅に隣接して23年2月に開設され、開設後間もなく震災が発生したが、利用者と職員は速やかに避難所に避難しており、そのことが職員の大きな自信につながっている。また利用者の半数以上が男性であり、女性利用者が台所仕事を請け負う一方で男性利用者は掃除仕事を担うなど、他事業所では見られないような共同生活の場面を生み出しているのも特色である。ホームの共有空間は明るく、心潤う共同作品や季節感を彩る絵と共に七夕短冊の願い事も面白おかしく、笑いの絶えない楽しい雰囲気となっている。開設当初に職員全員で独自に「あふれる笑顔とまごころで」のスローガンを掲げ、更には助け合いのイメージ標語を掲示しており、これは職員だけでなく利用者においても共有されている。震災を乗り越えた自負を背景に、職員や利用者も含めてそこに暮らす一人ひとりが「自分たちの暮らしを守り、創っていく」という意識と、互いに支え合い調和した生活観を生み出していくことが期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で年に1回新しい理念を話し合いながら作っている、また、見やすい所に掲示し支援する側もされる側も共有している。	法人の理念(尊厳に満ちた…)のキーワードを基調に、独自に「あふれる笑顔とまごころで」のスローガンを掲げ、更に職員個々が具体化のためのイメージ標語(例<思いやりいつも忘れず>)等々を目の高さに掲示し、職員と利用者が気持ちを互いに共有できるよう工夫しながら実践につなげている。	複数あるスローガンはどれも暮らしをみんなで分かち合うという思いにあふれており、効果的な掲示とあいまって職員や利用者の精神的支えとなっているように感じられる。この暮らしを分かち合い支え合うという姿勢は今後も大事にしてもらいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し地域の行事や子供会行事に参加している。	町内会の一員として地域行事には積極的に参加し交流を深めており、隣接の小規模多機能と地域交流を共有しながら保育園や中学生が事業所を訪れたりしている。また漁協への欽ちゃん来訪など、沿岸復興で催される様々な地域イベントにも出かけている。	事業所が立地する地区は震災を契機に今後新しい整備が予定されており、それに伴って地域交流のあり方も変化が予想される。そのなかで積極的に新たな関係を築いていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料や運営推進委員より頂いた意見やアドバイスを記した議事録を職員全員で回覧し内容を共有してサービス向上に努めている。	隣接の小規模多機能と共催するなかで、事業所の活動報告が種となっている。開設からそれほど年月が経っていない中で、グループホームとしてメンバーに相談することは多くない。しかしメンバー間は見知った間柄で、意見は活発にだされており、地域の状況を理解する機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に役場職員の出席を頂き、実情を報告している、又、町で開催される会日に出席し取り組みの報告をしている。	町主催の地域ケア会議に出席し情報を共有しているほか、担当課には制度的なことではわからないことがあれば相談している。震災後には担当課長が訪れ、異臭などの相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い職員は理解している。玄関の施錠は習慣化してしまっている。	玄関は夜に施錠しているほか、利用者が震災後の精神的に不安定な時期に外に出ようとしていたころは、日中でも施錠することがあった。職員が把握していないなかで利用者が外に出てしまうことについては、地域の協力も含めて検討している。	近所は日中不在の世帯も多く難しさもあるが、事業所は日常的に散歩や日光浴など近隣に出るようにしている。利用者を極力制限しないよう、緩やかな見守りの関係を徐々に作っていくためにも、まずは地域の人たちに顔を覚えてもらえるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われる行為は見られない。定期的な勉強会を開催する予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用中の利用者様がいらっしゃいます、継続して利用できるように支援体制は出来ています。特別に勉強会の機会は設けていないが、不明な点はその都度しらべている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	例をあげて説明し十分に理解してから契約の締結が出来るように心がけている。利用開始前に面接を繰り返し不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションの中から要望があれば、伺い可能な限り叶えている。	運営に関しての家族からの意見はまだ多くないが、利用者への対応について提案があったり、職員の対応について「自分だったらできない。すごい。」という意見や、手紙をくれる家族もあり、職員の意欲につながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換の機会を設けている。軽微な事や急を要する事については、朝礼で意見交換を行い反映する事が出来ている。	職員からは屋内の飾り付けの工夫や行事のプレゼント、雨が降っている時の活動作りなど、日々利用者と接する中で利用者の気持ちに沿ったアイデアが意欲的に出されている。	「技術じゃなく気持ちを大切にしたい」という管理者の思いと各種のスローガンが、まだ経験は浅くても利用者の気持ちに向き合う職員の意欲を支えている。今後も、自分たちが暮らしを創っていくという主体性を大事にしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況や努力は把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を実施している。外部での勉強会等の研修を受ける体制は出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業内での研修や勉強会を開催予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回利用時は意識して声掛けを行い不安を軽減できるような環境作りに努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の際や事前訪問の時に要望や困っている事を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からお話を伺う他に、介護支援専門員から情報を収集し必要な支援について検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や菜園作り・庭の整備などを利用者様に協力して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	法事やお盆などで自宅に帰家族と安心して過ごせる様に、夜間の様子や食事形態等をご家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間に制約がなく、自由に面会できる環境を作っている。ご家族から届いた荷物の御礼などの電話の取り次ぎをしている。	最初はお見舞いということで親戚や以前の近所の人たちが訪れ、その後継続的に会いに来るケースがある。また家族から荷物が送られてきた際は、利用者と一緒にあけて、すぐに電話で喜びを伝えるよう配慮しながら、利用者にとっての結びつきを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様と家事やレク活動を通して、ふれあえる機会を作るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	震災で避難されてきた利用者さまについて、担当ケアマネに電話等で情報提供を行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや日常の様子で気持ちをくみ取る努力はしている。	利用者が元気のないときはそばで話を聴いたり、各職員が1日の中で必ず全利用者とはすよう心がけるようにし、そのようななかで利用者の気持ちを職員が感じ取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・可能であれば介護支援専門員より情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや毎日の朝礼で生活の経過を確認する事で心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで話し合った事やご本人・ご家族とのコミュニケーションから聞かれた意向を計画に反映している。	本人、家族の要望やこれまでの生活歴を検討し、標準的な様式でケアマネージャーが作成している。定期的な計画の見直しは職員も参加して検討しているが、職員の視点の直接的なプラン反映については、今後職員の学習も必要としている。	今後徐々に職員もプラン作成に関わりながら、利用者一人ひとりの暮らし方や、その人らしさを実現するための具体的な視点などを全体で共有していくものとして、みんなで作っていくケアプランのあり方を検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記載している他、注意したい事や変化については『申し送りノート』を活用し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や面会に時間制限が無い。早朝の外出の際にお弁当(朝食)の用意をした事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する施設と常に交流が有り良好な刺激を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診しなじみの有る病院で体調の管理を行ってもらう。不穏が続いている方など必要に応じて職員が付き添い日々の様子を伝える事が有る。	受診は可能な限り家族に付き添いをお願いし、普段の暮らしぶりを文書にして渡している。家族が困難な場合や症状が重篤なときは職員が付き添い、医師に丁寧に説明するほか、家族も従来からの主治医のため良好なコミュニケーションがとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐が無い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での様子を医療機関に伝えるほか、定期的に面会を行い病院やご本人とも関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期のケースがまだない。	現時点で見取りまでは想定しておらず、これまでのところそのような要望も生じてはいない。長い見通しの中では利用者の重度化も想定されるが、隣接する小規模多機能と連携調整しながら支援したいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法やAED使用法の研修を終え、職員は確実に行う事が出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行い、利用者・職員とも避難の手順が身につけている。災害を想定したマニュアルを作り、職員は避難の手順や避難場所を理解できている。	毎月の避難訓練は火災訓練で、消防署立ち会いや夜間想定も含めて実施しており、非常階段からの避難場面に課題があると認識している。東日本大震災時は速やかに地域の避難所に利用者全員を避難させている。	震災時は避難所に一番に到着しているほか、毎月の訓練は避難時間を短縮させていく動作の習得や課題の把握として機能しており、災害対策への意識の高さがうかがわれる。今後も様々な人たちの意見を聞きながら地道に訓練を重ねていってみたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や考え方を把握して接するよう努めている。	見守りのために利用者の了解を得て、居室のドアは若干開けてもらっているが、気にする若い利用者についてはきちんと閉めている。またトイレに鍵がかかることを気にする人もいるので、要望に応じて配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のその日の心身状態を理解したうえで、ご本人が安心できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はある程度決まっているが、体調やご本人のペースに合わせた暮らしが出来るよう対応している。居室での食事や水分補給、縁側でのお茶の提供など行うことも有る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の『毛染め』や化粧品の購入をお手伝いしおしゃれが出来るよう支援している。理容所の予約や付き添いの他希望者には髪を切って身だしなみを整える事も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や山菜の下ごしらえ、味見を行って頂いている。季節感のある食事や昔ながらの行事食の提供を行っている。	食事準備等を手伝える利用者は多く、皮むきや米とぎ、じゃがいもの芽かきなど、様々な作業を一緒に行っている。またラーメン屋に出かけたり、七夕のときは屋外でバーベキューを楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量を把握している、食事形態の変更は柔軟に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは習慣化している。口腔内の状態が悪い時は、歯科受診や診察の付き添いを行い良好に保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で声を掛けあいながら、トイレ誘導や声掛けを行っている。	夜間は居室に設置したポータブルトイレを使う人もいるが、基本的に日中は全員トイレを利用している。トイレから出てきた利用者が「点検して」と言って職員を呼ぶなど、互いの信頼関係の中で支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや乳製品を1日1回以上摂取して頂き、軽体操や散歩の実施で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望時間を伺い、可能な限りその時間に提供している。外出や受診の前日に入浴を提供している。	週2～3回程度入る利用者が多いが、入浴を拒否する利用者もあり、タイミングや声掛けを工夫しながら入ってもらっている。また自宅に宿泊する際にも自宅での入浴が要らないよう入ってもらってるほか、毎日タオルを渡して清拭と更衣の習慣につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各自に任せている。日中の休息はソファ（冬季は炬燵）で下肢を上げて休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は内容や用法を理解している。インスリン注射を必要とする利用者様は確実に自己注射が出来るように見守りや確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	菜園作り・食事のかたづけ・漬け物作りなど役割を持って頂いている、又、食後の喫煙の対応を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散策やベンチや縁側と一緒にお茶を頂く事が多い、ドライブや外食を定期的実施している。	事業所の備品を宮古まで買いに行く際に同行する利用者があるほか、田野畑の道の駅にいたり、サクランボ狩りに全員で出かけたりしている。また日常的に事業所前の道路に設置されたベンチなどで日光浴をしながら、行きかう人たちとあいさつをしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や受診の際はこずかいの入った財布を渡し、自由に使えるようにしている、紛失回避の為帰所後は金庫で職員が保管をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族から届いた小包の御礼や近況報告の電話対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な臭いや汚れが無いように清潔にしている、居室エリアには各自が迷わないようにお名前を表示している。	季節が織り成す風景や北リアス線を走る電車などを居ながらにして楽しめる環境にあり、共有空間は明るく、地厚いラシャ布で作成された心潤う作品等のほか、テレビやソファでは利用者と職員の笑い声が響き、七夕の短冊には、願い事が面白おかしく描かれ、賑やかな中にも心地よい空間作りに努めている。	七夕の短冊は利用者全員の願いが複数個所に効果的に飾られており、願いと希望にあふれた雰囲気を感じている。また他の装飾品も細かな工夫にあふれており、職員の気持ちが感じられる。今後もみんなが気持ちよく過ごせる空間作りは継続して行ってほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際のソファ(冬季は炬燵)で一人になる事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご本人の気に入った『絵』や『ご家族の写真』などを貼っている。なじみのベットや音響機械を持参されている方もいらっしゃいます。	個室は2階で、ベッド、エアコン、クロゼット、ナースコールが備えてあり、使い馴れたラジカセや整理箱、お気に入りの家族写真や絵等を飾っているほか、利用者の状態に応じて、歩行補助具や椅子を配置するなど、安全への環境づくりにも配慮し、居心地いい個室環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い空間には安定感のある椅子を配したり、室内用の歩行補助具を使用し自由に移動できるようにしている、又、小型のエレベーターを使い上階への移動も可能になっている。		